

令和6年度四万十町教育研究所 第2回運営委員会会議録（要旨）

1 日 時 令和7年3月4日（火）15:00～16:30

2 場 所 四万十町農村環境改善センター 第1会議室

3. 出席者

運営委員 大崎 幸 正岡 美砂（欠） 竹内 浩一（欠） 井上 智香
林 賢一（欠） 大崎 弘和 石崎 豊史 戸田 晶秀（欠）
事務局 山脇 光章（教育長） 浜田 章克（教育次長） 長森 伸一（課長）
野村 泰子（所長） 武政 仁美（研究員） 齋藤 マサ（SSW）
小野川 恵利（SSW） 西田 香利（発達教育支援員）
榊山 雅子（支援センター指導員） 中平 均（支援センター指導員）
藤原 克彦（支援センター指導員）

4 傍聴者 0名

5 日 程

- (1) 教育長挨拶
- (2) 事業報告
- (3) 協議
 - ① 令和6年度の教育研究所活動内容について
 - ② 令和7年度に向けて
 - ③ その他

6 事業報告

- (1) 教育研究活動（研究員の調査研究テーマ）
事務局より 資料（事業報告案）P1～P2 及びパワーポイントにて説明
- (2) 学校研究支援
 - ① Q-U・hyper-QU の取り組み
 - ② 「いのちの学習」の取り組み
 - ③ 校内研修支援
事務局より 資料P3～P5 及びパワーポイントにて説明
- (3) 教育支援センターの運営
事務局より 資料P6～P8 及びパワーポイントにて説明
- (4) 教育相談活動（SSW・発達教育支援員）
事務局より 資料P9～P12 にて説明
- (5) 研究協力校の取り組み

事務局より 資料P13～P16 及びパワーポイントにて説明

(6) 副読本「わたしたちのまち 四万十町」検証

事務局より 資料P17 にて説明

(7) 四万十教科書センターの運営

事務局より 資料P18 にて説明

(8) その他の取り組み

①研修会

②所内会・全体会

③教育研究所便り「しまんと」

④えんぴつの持ち方教室

事務局より 資料P19～22 及びパワーポイントにて説明

7 協議

(1) 令和6年度の教育研究所事業報告について【質疑】

石崎委員 : 大正十和地域での小学校の不登校傾向の児童が10名おり、低学年の児童も多くなっているというのが気になったが、窪川地区ではどうか。

野村所長 : 窪川地域は大正十和地域より不登校傾向の児童は少ない。現在小学校で完全に来ていないのは4名。大正十和地域には学校に行くことが全てではないという考えをもった保護者がおり、そういった人たちの考えを変えるということは非常に難しい。

石崎委員 : 自分が研究所にいた時にも同じような考えをもった保護者がおり、「あなたはあなたでいいかもしれないが、子どもさんは学校に行きたがってるかもしれないので、子どもさんの気持ちは大事にしてくださいね」と話したことがある。心配なのは、保護者が勉強がどうしてもいいという考えになってしまったら困る。

野村所長 : 今は低学年からの不登校も増えている。

齋藤SSW : 窪川地域は高学年の不登校傾向の児童が多い。そのような子たちは家庭的な要因が非常に高い。

大崎委員 : いのちの学習に関して、実施している小中学校が少ないという課題があるようだが、自分の子どもが通う学校の学校評価アンケートの中で「いのちの学習をしてほしい」という声があった。学校が実施に至らない背景は何なのだろう。

研究員 : 大正中や田野々小など、継続していのちの学習に取り組んできている学校は、年間の教育計画の中に組み込まれていると思うが、これまで実施していなかった学校が新たにいのちの学習に取り組むとなると学校の先生方には労力がかかることになるので、その部分が実施に至らない理由ではないかと思う。

大崎委員 : とてもいい取り組みだと思し、澤田先生という熱い思いを持って長年取り組まれている方がせっかく身近におられるので、ぜひ多くの学校に広がってほしい。

長森課長 : 川口小が研究協力校の取り組みの中でコグトレオンラインに取り組んだとあったが、学校の方で何か課題があって取り組むことになったのか。

- 大崎校長 : 川口小はペーパーのコグトレには認知機能のトレーニングのため数年前から取り組んでいた。今回研究協力金があったことをきっかけにオンラインで取り組むようにした。オンラインにするとタブレットで手軽にできるので子どもたちは喜んでやっている。先生たちが印刷する手間が省けるし、検証することもできるのがよい。来年度も継続して取り組みたいと思っている。
- 長森課長 : まるぐランドとの違いは何か。
- 西田 ST : まるぐランドは読み書きの課題が中心で、認知機能に関してはゲームで取り組むことになっている。まるぐランドでは読み書きの判定はできるが、認知機能に関しては採点がないので認知機能が改善されたかどうかは判断できない。認知機能の改善を見たかったらコグトレが有効だと思う。
- 野村所長 : まるぐランドは現在特別な支援が必要な児童生徒に実施しているが、コグトレは全児童生徒を対象としているところも違う。
- 山脇教育長 : 現在様々なデジタルソフトや ICT 教材があるので、何を使うことが効果的なのかということを検証していかないといけない。
- 井上委員 : 大正中にも西田先生が来てトレーニングしていただいているが、中学生からでも変わるのだということを実感している。勉強が苦手な生徒はどうせ分らないと諦めており授業中も寝ていたりしたが、中学生でもひらがな、カタカナから始めてもらい、やったらできるかもと生徒が実感することができ、学習に取り組む態度も変わってきた。昨年度から続けてもらっているが、今後お願いしたい。訓練対象の人数が増えてきて今でも日程調整が大変なので、今後さらに人数が増えてくるとどうなるのか心配はある。
- 大崎会長 : 西田先生には支援会にも参加していただいてアドバイスをいただいているのでありがたい。保護者を交えた会にも参加していただいている。
- 野村所長 : 学校からそのように言ってもらえるのはありがたいので、今後も何とか調整をしてできるだけ学校の要望に応えていけるようにしたい。
- 大崎会長 : 令和 7 年度に向けて要望等があればお願いします。
- 大崎委員 : もんちゃん鉛筆の教室は来年度も実施予定か。
- 研究員 : 企業からの寄付も変わらずいただけるようなので、来年度も実施する。
- 野村所長 : 研究員の研究に関しては来年度もクラウド等の ICT を日常的にかつ効果的に使い、個々の学びにつなぐことができる教師の育成に取り組みたい。研究所の重要課題である不登校の早期発見、未然防止については、多様な考えをもった保護者の方もおいでたりして苦慮しているが、多様性の時代であるということも視野に入れて支援センターの運営もしていきたい。令和 7 年度もいのちの学習やもんちゃん鉛筆の実施や、支援センターのさらなる活気的な運営に向けて努力していきたい。
- 大崎会長 : よろしいですか。

(閉会)